

しれとこ の森通信

2016/
No.19

100 平方メートル運動の森・トラスト

特集

「カツラの森、命あふれる川の復元事業」 の 5 年間

～ボランティアの軌跡から～



この用紙は環境保全（資源活用）のため
古紙配合紙を使用しています。



NATIONAL TRUST

知床で夢を育てませんか！

いのちあふれる森を次の世代へ

カツラの森、命あふれる川の復元事業の 5 年間

～ボランティアの軌跡から～



2011年、知床の森づくり
の新たな展開として、

100平方メートル運動地の中央
を流れる岩尾別川沿いの河畔の森
を復元する取り組みを開始しまし
た。

それから5年間、エゾシカから
森の木々を守る防鹿柵を3カ所に
設置し、その内の1カ所にはカツ
ラの苗木を177本植え付けまし
た。これらすべての作業は、多く
のボランティアの皆さんのご協力
を得て実現したものです。このプ
ロジェクトでは、森を復元するだ
けではなく、たくさんの人に関わ
っていただいたことで、知床の森
と人、そして人と人との輪が広が
ったことも大きな成果と言えるで
しょう。

今回の特集では、この5年間の
プロジェクトの中で9回開催した
ボランティアイベントの中から、
2013年秋に行われた3泊4日
のイベントをピックアップし、ボ
ランティアの皆さんの活動を通し
てこのプロジェクトの現場の様子
をお届けします。

1日目 防鹿柵 づくり

今回の参加メンバーは12名。初
めて迎える知床の朝。早起きをし
てまずはしっかりと朝ごはん。そ
れから身支度を整え、自分たちで
作ったお弁当を持って現場へと出
発です。

この日は、新しい防鹿柵を立て
る「新設班」と既存の柵の手直し
をする「かさ上げ班」に分かれて
作業を行いました。「新設班」は、
読んで字のごとく新しい柵を立て



いざ、柵づくり開始！



三角形はボルトナットで固定。柱を押さえる人、レンチを使って締める人など、それぞれに役割を決めて作業します。

る作業です。この現場は、いわゆる「河原」で大きな石がごろごろしているため、穴を掘って柵の柱を立てることができません。そこで新たに考案したのが、柱を三角形に組み、それを連結させていく「自立式トライアングル工法」です。これは、いっさい穴を掘る必要がない、画期的な柵の設置方法です。新設班のメンバーは、柱を支える人やボルトナットを締めたりする人など、役割分担をしながら三角形の骨組みを次々と立てていきます。

一方、「かさ上げ班」は、前年に設置した柵をさらに高くする「かさ上げ」作業を行いました。初めての冬を越した結果、この柵

カツラの森、 命あふれる川の 復元事業

(2011～2015年)

岩尾別川は、知床連山を源とする約10キロの溪流河川です。この川の流域には、かつてカツラを中心とする豊かな河畔林がありました。これらの木々は開拓当時に切り出されたほか、1980年代の大洪水などによってその多くが失われました。

河畔林は、多くの生き物の暮らしを支えています。木陰が水面を覆うことで水温を低く保ち、また枝から落ちる昆虫は魚のエサになります。そして、その魚はさまざまな生き物の生きる糧ともなっています。

この事業では、豊かな河畔林と川の流れ、そして生き物の営みを復元することを目的としてプロジェクトを進めています。

では、一部の場所で柵の高さにせまる雪の吹きだまりが発生することがわかりました。これではせっかくの柵もシカに入られてしまい、柵の中の木を食べられてしまいます。そこでかさ上げ班では、もとの柵の上部にさらに板をクギで打ち付け、柵の高さを足し増ししていく作業を行いました。

どちらの班も最初は慣れない手つきでしたが、徐々に要領をつかみ、さらに周りとの連携もあうんの呼吸になり始め、作業効率が見える上がついていきます。また、メンバーの経験や経歴もさまざまで、例えば技術畑で働いている方は、安全確認はもちろん、ナットの締め方やクギの打ち方、はたまた凸凹した場所での脚立や三脚の立て方にまでプロのセンスで対応します。一方で、事務的な仕事に携わっている方は、現場をうまく回すため、道具の配置や物の受け渡し方など、細かい段取りにまで気を配ったりするなど、各自の得意分野を活かしつつ、それぞれの作業を着々と進めていきました。



かさ上げ班

柵の高さは基本2.5～3m。使うクギは3寸5分の約10cm。曲げずに打ち込むにはコツと経験が必要です。



新設班

現場の地形は10cm離れるだけでだいぶ違います。都度、柱の垂直を確認したり、足元の石をずらしたり、ひとつとして同じ工程はありません。

2日目

草取り

前日の建築作業から一転して、今日の仕事は除草作業、いわゆる「草取り」です。知床の森づくりでは、運動地に植え付けるための苗木を苗畑で育てています。そして、この5年間のプロジェクトでも、河畔の森を象徴するカツラの苗木の育成を進めました。

しかし、ここは知床の自然の中、苗木の成長以上にどんな雑草が伸びてきます。そこで欠かせないのが日々の除草です。この日は、カツラとトドマツの苗床の草取りを行いました。地面に向かって黙々とひたすら雑草を取り続けます。肝心なのは、「むしる」のではなく、しっかりと根っこまで「抜く」ことです。根を残すと数日で雑草は復活してきてしまうからです。

かがんだ姿勢で進めるこの作業は、地味でつらいものですが、終わった後の達成感は格別です。な

カツラの5年

このプロジェクトでは、シカから木々を守る柵づくりだけでなく、カツラの育成にも取り組んでいます。この5年間で、カツラ苗の掘り取りから育成、植樹先としての防鹿柵の設置、そしてそこへの植え込みまでを終わることができました。今後、もこれらの苗木を、多くのボランティアの皆さんの力を借りながら見守り、育てていきます。



このサイズのカツラの稚樹を掘り取って、苗畑で育て、丈夫で大きな苗にします。

2012年5月



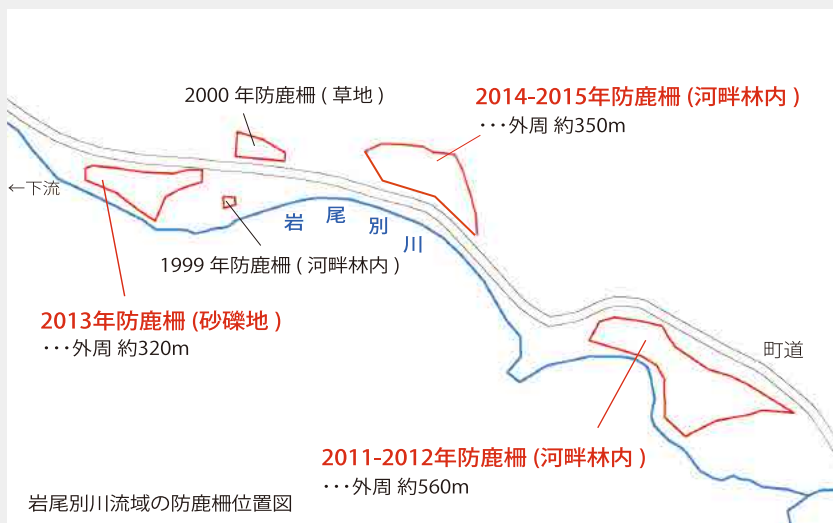
掘り取った稚樹を苗畑に移植しました。

防鹿柵

100平方メートル運動の森づくりの歩みは、エゾシカとの戦いと言っても過言ではありません。本格的な森づくりを始めた1990年代後半と時を同じくし

て、シカの生息数も増加の一途をたどり、シカが好んで食べる植物の中には、運動地からその姿を消してしまうものも少なくありませんでした。そんな環境の中で森づくりを進めるために、

シカの侵入を防ぐ「防鹿柵」は重要な役割を果たしています。運動地内の防鹿柵は全部で大小合わせて全部で19基、その内3基はこのプロジェクトで設置したものです。



岩尾別川流域の防鹿柵位置図



ひたすら草を抜くだけでもやみつきに
(写真はトドマツ苗)



により人の数の力は絶大で、数人のスタッフだけでは数時間掛かる作業も、12名のボランティアの皆さんの手にかかることあつという間に終わります。

現在



柵の中に植えたカツラの苗。順調に成長しています。

2014年5月



2年を経て丈夫な根に育ったカツラの苗。いよいよ植樹です。

2013年8月



苗畑の除草作業はひと苦労です。

この日の夕食の席では、「やつとクギを曲がらず打てるようになったのに2日間では短い」「前の年に掘り取ったカツラの成長に驚いた」「知床では他にも困っていることがあるはずだ。またボランティアにぜひ来てほしい」などなど、2日間の森づくり作業の感想や知床への新たな思いが熱く語られました。



クギを打ちすぎて
箸がもてません。。

プロジェクトを終えて

5年間のプロジェクトでは、前述の防鹿柵の設置やカツラの苗木の植え付けの他にも、人為的に直線化された川の一部に手を入れ、本来の流れを取り戻す試みや、サケやマス、オシロココマなど生き物にとって生息しやすい川の環境を整える試みなども行いました。

本格的な森づくり開始からもうすぐ20年。100平方メートル運動地の防鹿柵内には、植えた木や自然の力で生えてきた木を含め、柵の外では見ることのできない小さな森が立ち上がりつつあります。そして、この5年間で設置した柵の中にも小さな苗木が育ち始めています。これらは、今まで関わっていたボランティアの方をはじめ、多くの方のご協力をいただいて積み上げてきた森づくりの成果のひとつです。

一方、このプロジェクト開始の翌年、2012年からは、シカの捕獲事業が始まっています。知床本来の植生を回復させることを目

的に、運動地を含む周辺地域でもエゾシカをしかるべき数まで減らす試みです。その後4年間で1000頭以上のシカが銃や囲いワナを用いて捕獲されており、運動地の柵の外でも今まで目にするものがなかった小さな木々や草花の姿が見受けられるようになっていきます。捕獲開始からわずか数年間で変化の兆しを見せる植物の力は、知床の自然が持つ可能性を示すものなのかもしれません。

エゾシカの動向はまだ予測を許すものではありませんが、これからは、柵の有無に関わらず、知床本来の森が立ち上がっていく、そんな次のステージも視野に入れながら、日々の森づくりを進めていきたいと思っています。

自然の中での「5年間」は、わずかな時間ではありますが。知床の森づくりはこれからも続いていきます。

ご支援いただいています

今回、ご紹介した岩尾別川沿いのプロジェクトは、ダイキン工業株式会社様のご支援を元に進めてまいりました。この5年間、資金的な支援だけでなく、毎年春と秋に社員の方々が知床を訪れボランティアとして実際の作業に携わっていただきました。その人数は累計で100名以上となっています。

同社からは、今後も2024年までの8年間、引き続き知床の森づくりにご支援をいただくこと

になりました。今後も社員ボランティアの皆さんとともに森づくりを進めながら、知床の森と人、そして人と人との交流をさらに広げていきます。



■ダイキン工業 “空気をはぐくむ森” プロジェクト
<http://www.daikin.co.jp/csr/forests/index.html>

2015年度 に行った作業

森づくりナビゲーター
へーべえ君



「森づくりの道」柵内に苗木7本を移植

5月



5/1

「しれとこ森づくりの道」オープン

5月

トドマツ苗 400 本を山採り、苗畑内に移植
(5/15-19 第 15 回知床森づくりの日・春)

5-9月

岩尾別川沿いの河畔林に防鹿柵を設置
(5月、9月 ダイキン知床ボランティア)

6-10月

苗畑の除草作業 (ボランティア作業)

7/30
-8/5

「第 36 回知床自然教室」開催

サクラマスの遡上状況を調査

9月

老朽化した防鹿柵の補修
(第 19 回知床森づくりの日)

10月

柵外の草地にトドマツ苗 244 本を植樹
(第 19 回しれとこ森の集い)

10/14
-31



「冬の森づくりの道」
(スノーシュー・歩くスキーコース) オープン

1/31

積雪期の運動地巡視

2月



10/30
-11/4

アカエゾマツ造林地のギャップ* に大型苗
9 本を移植 (第 19 回森づくりワークキャンプ)

11/16
-17

森林再生専門委員が運動地を視察



2-3月

樹皮保護ネットの巻き直し作業

お知らせ

長年、「森の番人」を務めた橋本勝さんは昨年度末をもって勇退されました。長い間、お疲れ様でした。

山崎
やまざき猛さん
たけし

北のアルプ美術館館長。100 平方メートル運動推進本部副会長、森林再生専門委員も務める。昭和 12 年、松山管内乙部町生まれ。中学を卒業し斜里町に移住、15 年間書店の住み込み店員として働き、後に独立して事務機器販売会社を設立。事業を成功させる一方で、知床の自然と向き合う写真家としても活躍。さらに地元斜里町に山の月刊文芸誌『アルプ』を展示する「北のアルプ美術館」を開設。現在も館長を務め、人と自然の関わりを芸術を通して発信し続けている。

中学校卒業後に斜里に來られたとのことですが、当時の斜里での生活はどうでしたか。

住みこみで働いていた書店では、斜里町内の小学校に教科書や教材を配達していました。遠く離れたウトロへは船で通っていましたが、3 月末になっても流水があると船が出ません。そういう時は、教科書に乗せたソリを引いて山道を歩くのです。斜里・日の出（知布泊）からウトロの先の岩尾別まで往復 2 泊 3 日はかかり、水分補給に雪を食べながら歩きました。

途中の林道は巨木が林立し、うつそうとしていました。しばらく歩くと、農家の裸電球の光やまきストロブののろしのような煙が見えてきます。そんな眼下に見える光と煙から、自然と寄り添って暮らす人々の温かさを感じました。この時の経験が、知床と僕を結ぶ原点になっています。



岩尾別小中学校での授業の様子
（撮影：山崎猛さん、1950年代頃）

山崎さんが「100 平方メートル運動」へと繋がっていった経緯を教えてください。

1969 年、知床林道が開通しましたが、林道の工事は斜面を崩し、土をそのまま下に落とすだけというものでした。その時、知床連山に登り見下ろした海は、真っ赤で、僕はこれは大変な影響を自然に与えてしまったと思います。この教訓を元に斜里では「青い海と緑を守る会」が発足され、僕もその会に参加することになりました。この会は、斜里町の自然保護運動のさきがけとなり、その後の知床横断道路建設にも大きな役割を果たしました。例えばハイ

マツ帯をできる限り削らないなど、知床の自然に負荷をかけない工事が実現できたと思います。このような出来事を経て、斜里町では人と自然のかかわりを真剣に考える機運が醸成され、100 平方メートル運動開始に結びついていったと思います。

その中で、当時の町長（藤谷豊氏）と懇意にさせていただいていたこともあり、運動にも積極的に関わるようになったのです。

次世代へ向けてぜひメッセージをお願いします。

100 平方メートル運動提唱から 38 年経ち、ようやく今、知床の自然は快方に向かっていると思います。

来年、開館から 25 周年を迎える「北のアルプ美術館」では、これまで来館者の方々に自然賛歌の精神を伝えてきました。そして、その人の心の中に緑がよみがえることを期待してきましたし、これからもそれを強く願っています。そして、知床の森づくりに携わる人には、これからも自然の声を聴き、知床の自然に寄り添った活動をしてほしいです。これは、僕の不变のメッセージです。

知床自然センター リニューアルオープン！

2016年4月20日、知床自然センターが新しく生まれ変わりました。自然センターの最初のオープンは1988年。これまでたくさんのお客様にご来館いただき、知床の自然情報をお届けしてきましたが、オープンからすでに28年が経過し、施設の老朽化が目立ち始めていました。そこで、今回のリニューアルでは、施設の改修を進めたほか、館内のレイアウトや展示の大幅な変更も行いました。知床国立公園の斜里町側の入り口で、知床を訪れるお客様により質の高い自然情報をお届けし、知床のフィールドを楽しんでいただくための出発拠点となることを目指して、新たなスタートを切りました。

リニューアルのコンセプトは、「フィールドを知り、楽しむための国際ビジターセンター」。大型映像ホールでは、オリジナル作品『四季・知床』のほか、シマリスを主人公にした物語『小さな世界はワンダーランド』（BBC earth による制作）を上映しています。そしてもうひとつ、新しい自然センターでは、知床財団スタッフが直接皆さんに情報をお伝えるレクチャー機能の充実も図りました。

知床自然センターは、100平方メートル運動地の入り口でもあります。自然センター館内展示とスタッフによる



新しくなった館内のメイン壁画とインフォメーションカウンター

情報発信のほか、隣接する「100平方メートル運動ハウス」や「しれとこ森づくりの道」も活かしながら、知床の森を守り育ててきた運動の歴史と将来の夢をこれまで以上にお伝えしていきます。

知床にお越しの際は、ぜひ、新しい知床自然センターにお立ち寄りください。お待ちしております。



新設されたレクチャーコーナー。
知床の動物から運動の話まで、知床財団スタッフが毎日トークを実施中。

森づくりの道にも遊び
に来てね！



知床自然センター

営業時間 8:00~17:30(4/20-10/20)、9:00~16:00(10/21-4/19)
TEL 0152-24-2114 北海道斜里郡斜里町岩宇別 531 番地
UPL <http://www.shiretoko.or.jp/>

メッセージの紹介

ご寄付いただいた皆様からのメッセージの一部をご紹介します。

10年前、大学生の頃網走に住んでおり、知床の方へもよく足を運んでいました。いつかこちらの運動に参加したいと考えておりましたが、今回微力ではありますが寄付という形で参加させていただきます。知床の自然の早い回復をお祈りしています。

(東京都 20代女性)

子供たちには、自分たちの森が知床にあると話しています。植樹にいきたいのですがなかなか時間がとれません。いつか行ける日を楽しみにしています。大変ですが頑張ってください。

(千葉県 50代男性)

25年前雑誌で「しれとこで夢を買いませんか!」というキャッチフレーズを拝見し、知床に夢という言葉に惹かれました。その年に子供が生まれ、誕生記念に参加しました。続いて第2子が生まれ、また参加しました。ずっと私たちの夢を見て知床に行ってみたいと思いつつ、25年が経ってしまいました。いつか近い将来に私たちの森を見に訪れたいと思っています。

(宮城県 60代男性)

登山愛好者の母が知床をこよなく愛し、100平方メートル運動に共感して参加し、その影響で私も結婚後、子供の誕生記念に寄付させていただき、「しれとこの森通信」も送付していただいています。今後も機会があれば協力していきたいと思っています。未来に夢と希望をつなげる皆様方の末長い活躍を心からお祈り致します。

(新得町 男性)

30年以上前に初めて北海道を旅して偶然100平方メートル運動を知りました。亡き妻と参加したご縁を、成人した孫との命のつながりを知床の森に託します。

(神奈川県 70代男性)

昨年夏に旅行で立ち寄り、自然のスケールの大きさに感銘を受けました。ふるさと納税の制度を知り、ぜひにと思い立ち「知床 ふるさと納税」のワードで検索し寄付することができました。

(東京都 女性)

今年もお送りできました。私は9歳です。50歳の時に知床五湖を訪れて、そのときこになりました。「知床で夢を育てませんか」のタイトルに心惹かれて寄付して、現在に至っています。

(兵庫県 90代女性)

今月は出費が多くてどこを削ろうかと迷いました。通信をゆくり拝読して知床は削れないとの思いが深まりました。一口ですが…。みなさまの活動に感謝しています。

(岩見沢市 80代男女)

昨年103歳で亡くなった母は知床が大好きでした。母と30年前に運動に参加させていただきましたが、今回久しぶりにわずかですが寄付させていただきます。よろしくお願い致します。

(東京都 70代女性)

ここでは載せきれない程たくさんメッセージをいただきました!



こんにちは。斜里町役場・環境課で課長を務めております、茂木です。

この運動もスタートから数えて、来年で丸40年を迎えます。毎年お寄せくださるご寄付とあたたかなメッセージに支えられ、ここまで森づくりを進めてくることが出来ております。運動地は、豊かな自然あふれる森として復元することが、皆様とのお約束。100年かかる?…とすると、200年かかるかもしれません。

1000年経っても美しい知床、幾久しく愛される知床を目指して、私たちも頑張つてまいりますので、引き続きご支援くださいますようお願い申し上げます。



斜里町長 馬場 隆

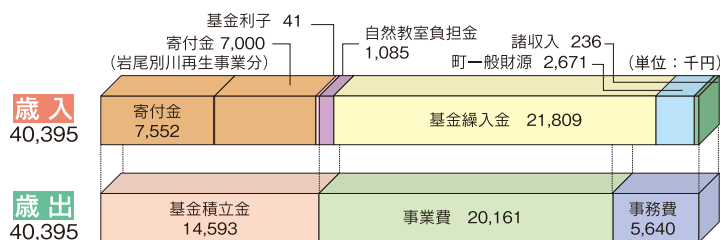
引き続き皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

その原点を忘れずに、太古の森と野生の躍動を夢見て、未来を見据えた挑戦を続けてまいります。

私たちは運動を始めたときから大切にしていること、それは皆様から頂戴しているあたたかな気持ちとともに、運動地に豊かな自然をよみがえらせることです。

「100平方メートル運動の森・トラスト」への温かいご支援に対し、心より感謝申し上げます。今年も「しれとこの森通信」をお届けする季節となりました。

2015年度決算の内訳

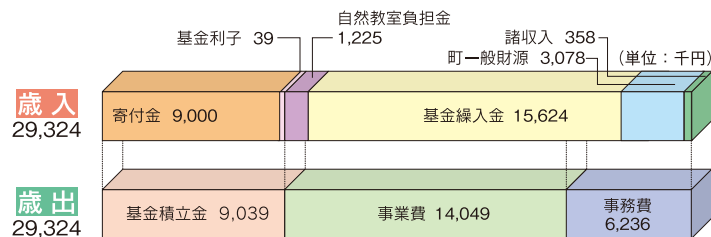


運動の活動資金は、「国立公園内森林保全基金」として斜里町が管理しており、町の一般会計と基金からの繰入金により事業を実施しています。

2015年度決算と2016年度予算の詳細については左図をご覧ください。

会計報告

2016年度予算の内訳



国立公園内森林保全基金の状況

(単位: 千円) (2016年5月31日現在)

国立公園内森林保全基金		2014年以前	2015年	計
歳入	寄付金	836,601	14,552	851,153
	利息	69,732	41	69,773
	計	906,333	14,593	920,926
歳出	事業費	712,874	19,077	731,951
	事務費	127,152	2,732	129,884
	計	840,026	21,809	861,835
残高				59,091

運動参加(寄付)のお願い

「100平方メートル運動の森・トラスト」は、運動参加者の皆さまからの毎年の寄付金によって支えられています。引き続き、あたたかいご支援をよろしくお願いいたします。

寄付金 一口: 5,000円

寄付の方法

【郵便払込】

1. 申込書に必要事項をご記入の上、郵送またはファックスで斜里町役場へ送信してください。
2. 申込書付属の払込取扱票もしくは下記口座まで寄付金をお送りください。

口座番号: 02740-8-10555

加入者名: 斜里町役場

※郵便局以外の金融機関からお振込みを希望される場合は、お問合せください。

【現金書留】

申込書を同封の上、現金書留を斜里町役場にお送りください。

ホームページからもお申し込みいただくことができます!



控除制度について

運動への寄付金は、所得税および住民税の控除制度(ふるさと納税)の対象となります。

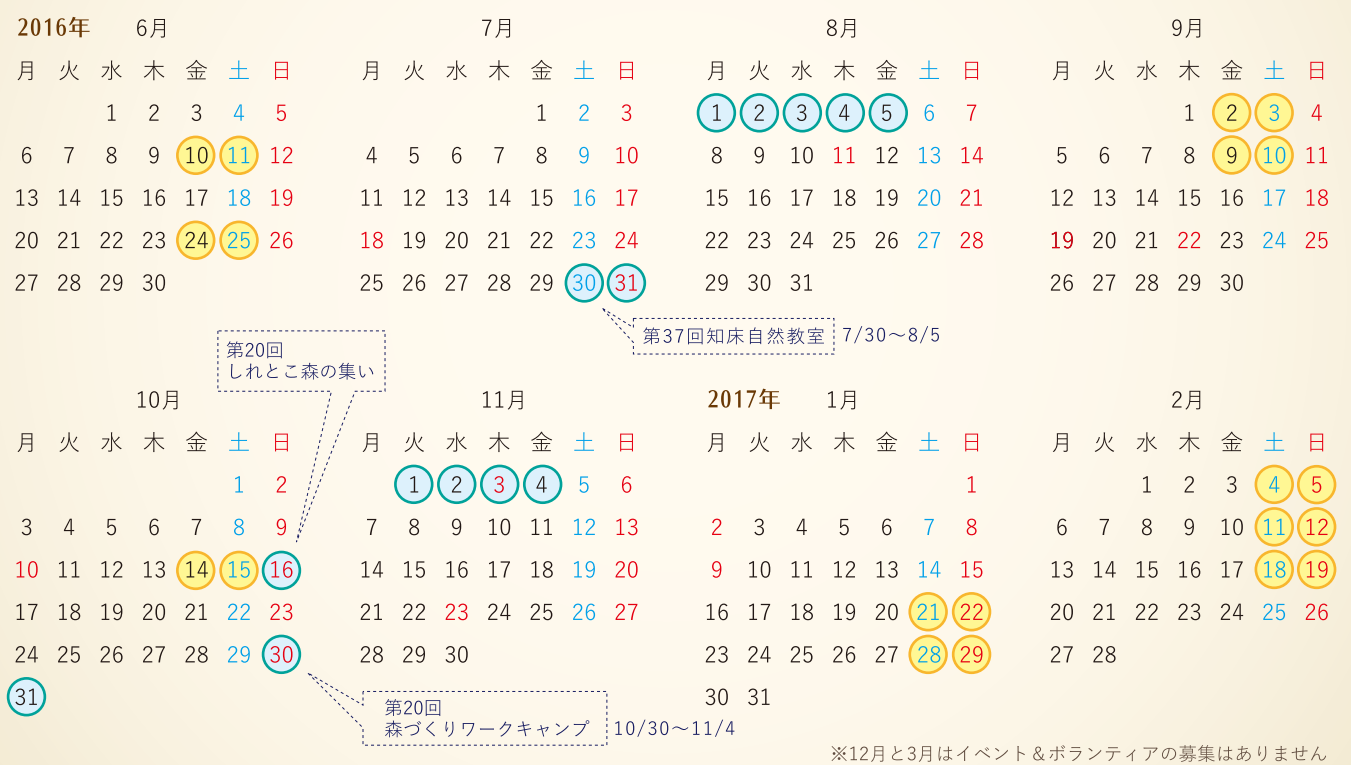
- 所得税は、課税対象額から寄付控除を受けることができます。
- 住民税は課税額から寄付控除を受けることができます。
- 控除の対象となるのは、2,000円を超えるご寄付です。

【お問合せ】

〒099-4192 北海道斜里郡斜里町本町12番地
斜里町役場 自然環境係
TEL: 0152-23-3131 (内線100) FAX: 0152-23-4150
MAIL: 100m2@town.shari.hokkaido.jp
「100平方メートル運動の森・トラスト」ホームページ
<http://100m2.shiretoko.or.jp/>

2016年度 しれとこの森づくりカレンダー

● 週末ボランティア募集
● 参加者募集イベント



森づくりボランティア&イベント参加者募集中！
知床の森づくりには皆様の力が必要です！皆様のご参加お待ちしております。



森づくり週末ボランティア

- 日程：上記カレンダー参照
- 集合/解散場所：知床自然センター
- 集合/解散時間：9時頃/16～17時頃

活動内容

6月・9月…苗畑作業(除草・育苗管理)等
1月・2月…防鹿柵の作業地巡視等

第37回 知床自然教室

- 日程：7月30日(土)～8月5日(金)6泊7日
- 対象：小学校4年生～高校3年生
- 定員：40名(先着順)
- 参加費：35,000円
(別途、現地までの交通費)
- 申込：7月4日(月)まで

知床の自然の中でキャンプ生活！



第20回 しれとこの森の集い (植樹祭)

- 日程：10月16日(日)
- 参加費：無料

※こちらの参加申し込みは斜里町役場まで

【斜里町役場環境課】

TEL：0152-23-3131
FAX：0152-23-4150

森を散策したり、木を植える1日



第20回 森づくりワークキャンプ

- 日程：10月30日(日)～11月4日(金)5泊6日
- 対象：18歳以上
- 定員：15名(先着順)
- 参加費：18,000円(宿泊・食費込)
- 申込：10月17日(月)まで

森づくりに打込む合宿形式の6日間



イベント・ボランティアの参加申込み・お問い合わせはこちらまで。

「公益財団法人知床財団 自然復元係」

TEL: 0152-24-2114 MAIL: info@shiretoko.or.jp

詳しくは100平方メートル運動HPで

知床 運動 ▶ で検索！

発行：斜里町 編集：公益財団法人 知床財団 印刷：有限会社 斜里印刷